

公共交通利用で 歩いて楽しいまちづくり運動

平成26年2月21日

両備グループ 代表・CEO 小嶋光信

両備グループの歴史と概要

明治43(1910)年に西大寺鐵道(株)として創立

地域社会への貢献を目指し、暮らしと密接に結びついた事業と共に文化事業にも取り組む

運輸・観光関連部門、情報関連部門、生活関連部門で、
現在52社、年商約1400億円、社員総数約8000人の企業
グループ

「運輸・観光関連部門」、「情報関連部門」、「生活関連部門」
という3つの部門(コア)を有機的に組み合わせて、地域
社会の発展に貢献。平成22(2010)年7月、創立100周年
を迎えた



「運ぶ」をもっと便利に進化させる
最先端の交通環境システムへの
取り組み



砂川鉄橋を渡る西鐵機関車



最新の情報技術を駆使した
各種情報システムの構築と
すぐれたサービスの提供



都市環境やバリアフリーに配慮した
快適で豊かな岡山の街づくり



両備グループ 3つのコア



西大寺鐵道 大多羅駅 風景

両備グループ 経営方針

一、社会正義

(社会への思いやり)

一、お客様第一

(お客様への思いやり)

一、社員の幸せ

(社員への思いやり)

両備グループ 行動規範

知行合一

すぐやる・必ずやる・
出来るまでやる

両備グループ経営理念

忠恕

平成26年 経営方針

忠恕の配慮

本気！根気！やる気！

平成26年 スローガン

業(道)を究め 頂を極める

両備グループ 経営テーマ

安全・安心・エコで健康

忠恕…真心からの思いやり

創業者・松田与三郎翁の教えが「天海院忠恕一貫居士」
という翁の戒名の中に込められている

子貢問うて曰く、
一言にして以て終身これを行うべき者ありや。
子曰く、其れ恕か。
己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。

『論語』衛霊公 第十五 412 より

両備グループ 経営理念

ちゅうじょ
忠 恕 とは？



両備グループ 行動規範

ちこうごういつ

知行合一 とは？

知行合一

…陽明学の命題のひとつ

行なわなければ、知っているとは言えない、
知っていても行なわないのは、
まだ知らないのと同じ、との意



地域公共交通の再生と「まちづくり」

歩いて楽しいまちづくり運動

歩いて楽しいまちづくり運動



グループ 経営理念 **忠恕** と 行動規範 **知行合一** に基づいた **経営**

まちづくり、地域づくり を目指した 公共交通の再生

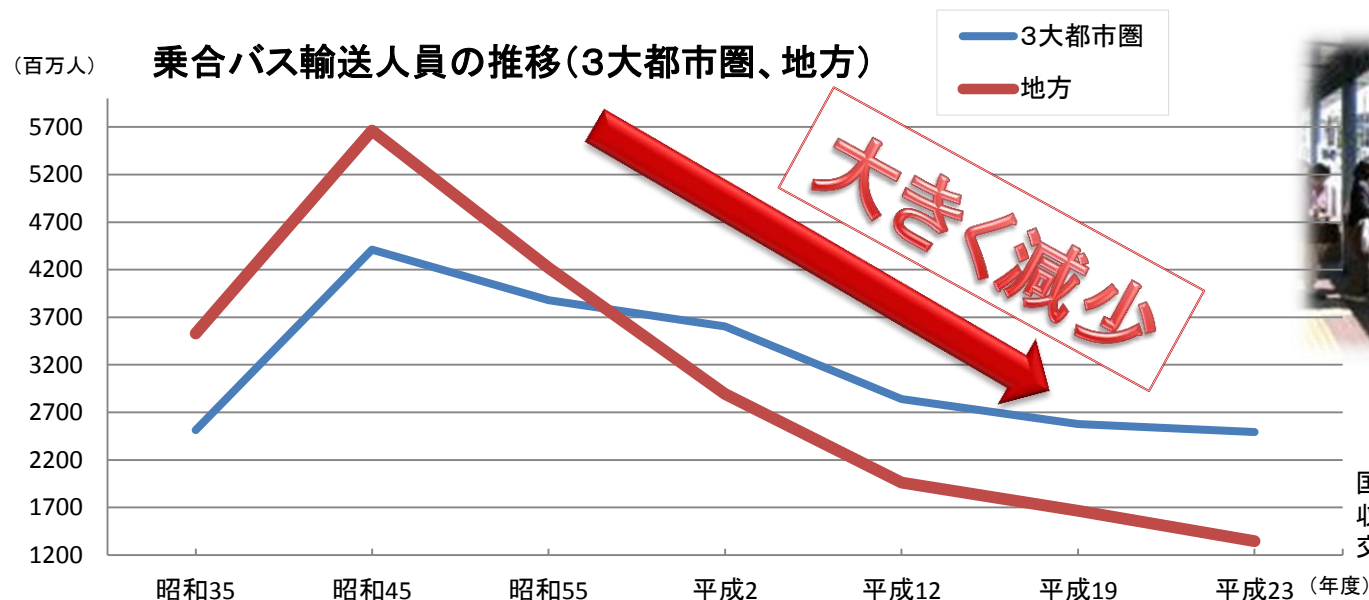
平成11年
社長就任時の 公共交通政策への危機感

マイカー時代の到来で、利用者の50～60%の顧客を喪失し、
地方都市のスプロール化により交通渋滞が慢性化、路線バスが
定時性を喪失 → 悪循環を招き、マイカーがより一層増加

規制緩和が衰退に拍車をかけ、公共への誤った費用対効果の概念
が導入された等々を要因として・・・

地方公共交通が衰退

公共交通再生への取組み … 地方公共交通の衰退

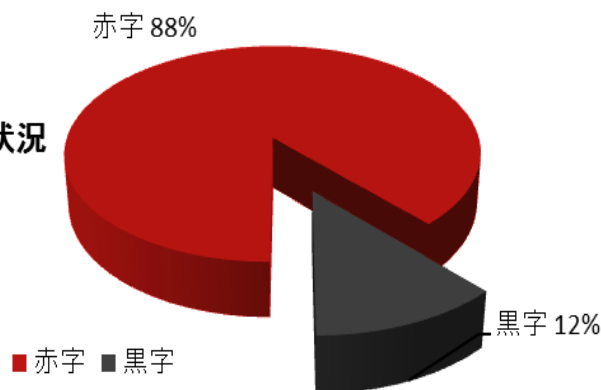


国土交通省「平成23年度乗合バス事業の収支状況について」&日本バス協会「都市交通年報」より

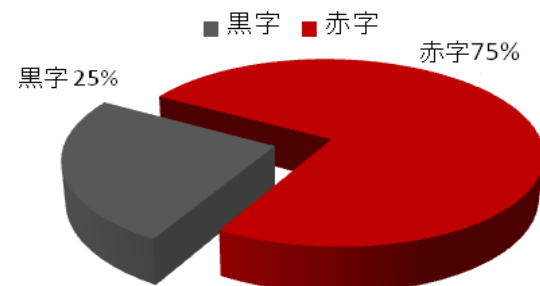
地方部(3大都市圏以外)での
平成22年度一般乗合バス事業の収支状況
(保有車両30両以上の事業者)

赤字 133社 黒字 18社

国土交通省 報道発表資料より



平成23年度 地域鉄道事業者の収支



国土交通省「地域鉄道対策 地域鉄道の現状」より

黒字 23社 赤字 69社

公共交通を残すための10年間の運動

利用促進を図るプランを次々と実施したが
お客様の減少は止まらず… 目に見えるように
「21世紀のまちづくり」を提案

公共交通利用による環境対策と地域活性化への取り組み

公共交通利用による環境対策と地域活性化への取り組み事例

- ① 公共交通の利用推進のためシンポジウムやパネルディスカッションを開催
- ② 社会運動として推進するための「岡山県公共交通利用を進める県民会議」を結成
- ③ オムニバスタウンの導入（岡山市・福山市にて実施）⇒ バスの利便性の向上を図った
- ④ お得な定期券や割引制度、パーク＆バスライドなどを企画・導入
- ⑤ フランス生まれの広告付きバスシェルター（MCDécaux社）を設置（岡山市内）
- ⑥ 競合会社との共同運行 → クリームスキミングや行き過ぎた競争を改善
- ⑦ 両備グループのバス用機器の独自開発《新規性＆独創性》
 - ・バス停簡易照明の自社開発（時刻表見えルン♪：LEDランプ使用）
 - ・世界初のバス車載用ウイルス除去装置の開発
- ⑧ LRV「MOMO」（次世代型超低床車両）の開発・投入、コンパクトシティのシンボルとしてのグレースタワー建設
- ⑨ 未来バス「SOLARVE（ソラビ）」やEV車両の開発・導入
（SOLARVEは、ソーラーシステムやハイブリッドシステム等、先進技術を集約した世界で唯一の未来型路線バス）

など

公共交通 → 地域活性化のツールのひとつ

◆ 歩いて楽しいまちづくり運動を提唱 ◆

- ◎ 岡山市中心部の活性化 → 両備グレースタワーの建設
- ◎ おかやまインターパークス ～出石小学校跡地整備事業～
- ◎ 未来型LRV(100 %超低床式路面電車)「MOMO」
- ◎ 日本初の広告付きバスシェルター(岡山市内)



おかでんMOMO

平成23年土地活用モデル大賞
国土交通大臣表彰を受賞!!

... など



両備グレースタワー



おかやまインターパークス



岡山市内にある広告付きバスシェルター
MCDcaux(エムシードウコー)社

まちづくり、地域づくりのポイント

公共交通の再生への取り組み

エコ公共交通大国おかやま構想(岡山市)
津エアポートライン(三重県)
和歌山電鐵(和歌山県)
中国バス(広島県)
ハロー・トーキョー(東京都)
神戸ベイクルーズ(兵庫県)
イースタンエアポートモータース(東京都)
井笠鉄道(岡山県) etc.



おかでんMOMO2



21世紀のまちづくりへの取り組み

歩いて楽しいまちづくり運動
おかやまインターパークス ~ 出石小学校跡地
整備事業 ~
岡山高島屋の再建etc.



ECOな地域づくりへの取り組み

安全・安心・エコで健康
やさしい蔵 etc.



忠恕の経営

両備グループ

公共交通再生への取り組み

- ◎ 津エアポートライン（三重県津市；2004年）
 - └ 松阪航路（三重県松阪市；2009年9月再生・就航）
- ◎ 和歌山電鐵（和歌山県和歌山市；2005年）
- ◎ 中国バス（広島県福山市；2006年）
- ◎ ハロー・トーキョー（東京都江東区；2008年）
- ◎ 神戸ベイクルーズ（兵庫県神戸市；2010年）
- ◎ イースタンエアポートモータース（東京都大田区；2011年）
- ◎ 井笠鉄道（路線バス）（岡山県笠岡市；2012年） など



先進国の中で地域公共交通を民間に任せ切った国は日本だけ… 公共交通のガラパゴス

再生事業

公設民営を実証実験 成功例となる

津エアポートライン

和歌山電鐵

* 地域との連携・相互協力
* 年間80件超のイベント開催
…話題づくり

中国バス

クレームをお褒めの
言葉へ変える

井笠鉄道

平成24年10月12日に破綻を発表し、
わずか19日で営業廃止

- ① 公設(有)民営化の有効性を立証
- ② 公有民営法成立の一助となる

☆ 年間5億円の赤字を公設民営方式と経営
努力で、2010年度40百万円以下の赤字
に削減し、補助金 約40百万円を返上

☆ 過去乗客年率5%減で、2005年度192万人
が、2008年度220万人へと約15%増加

- ① 補助金行政の非効率化の証明
- ② 経営インセンティブという画期的な補助金
制度の導入を促す

☆ 乗合乗客数 / 7.5%増加
平成18年度 3,817千人 → 平成21年度 4,104千人

☆ 有責事故 / 93%減少
平成15年度 124件 → 平成22年度 8件

☆ 苦情 / 46%減少
平成17年度 198件 → 平成22年度 92件

→ 地域公共交通の活性化、交通基本法成立を目指し尽力

公設民託方式への第一歩として「準公設民営」での
再生を図る

→ 地域公共交通への対応の緊急性が再認識される

抜本的な解決には至っていないが…

交通政策基本法 成立

平成25年11月27日



第185回国会 国土交通委員会での参考人陳述 風景
(平成25年11月12日開催)

西大寺鐵道から両備バスへと
移った時代と異なり、
次に変わる公共交通はない



未来へ
地方公共交通を残す
最後のチャンス!

エコ公共交通大国の実現

年2千億円×10年間 = 2兆円の国民的プロジェクト

政令市となった岡山市内交通を、LRTと新世代バスを中心に、
「環境」と「高齢化」に対応し、「情報システム化」した
21世紀に誇れる公共交通に大変革する

エコ公共交通大国おかやま構想

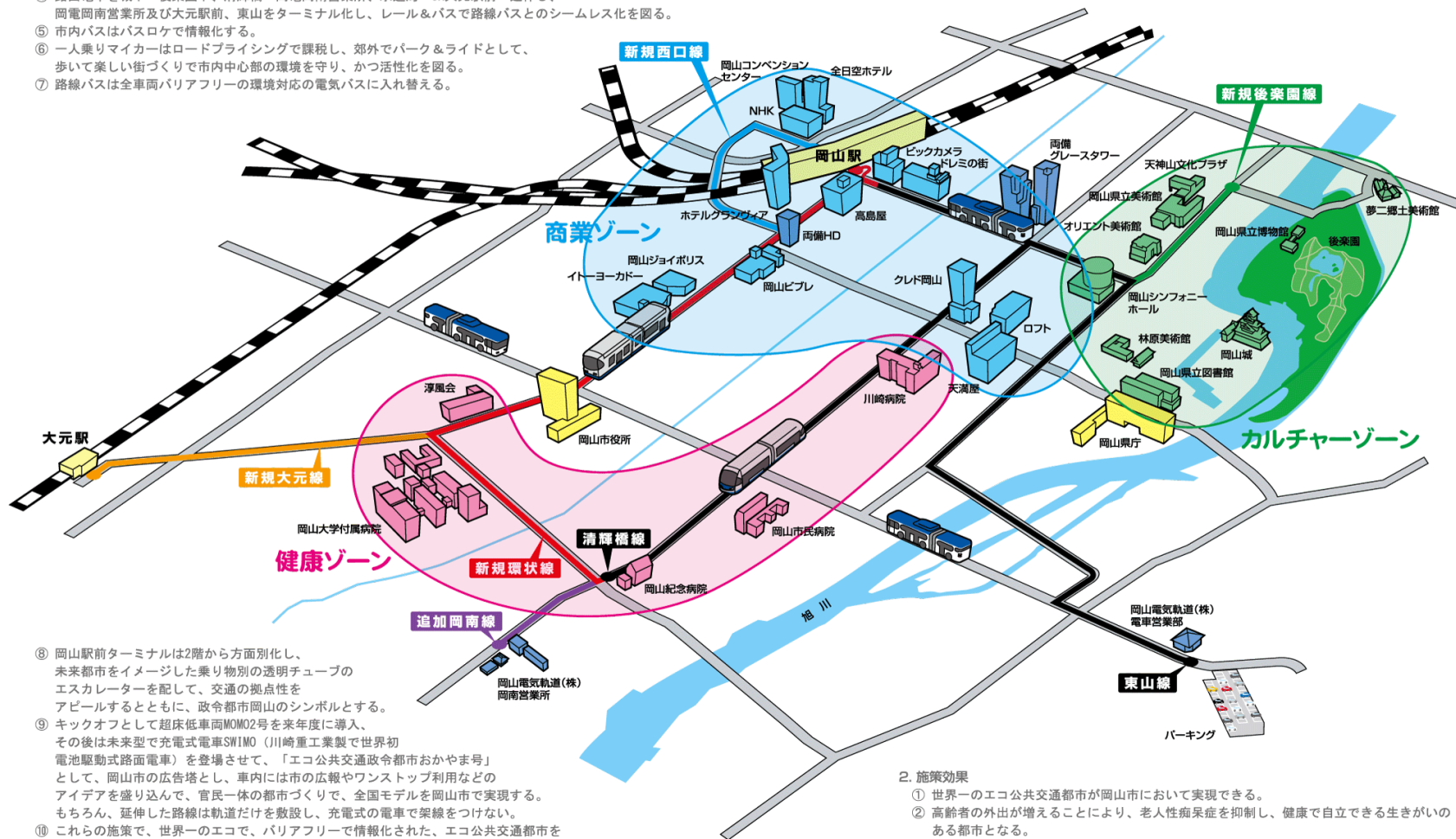
平成22(2010)年5月 岡山市へ提言

具体的には、公有民営による官の役割と民の役割を明確にした
施策により、LRTと新世代バスによる「歩いて楽しいまちづくり」で
あり、環境に優しく、高齢化社会に対応した先進的且つ総合的
都市交通システムの提言

路線の延伸による市内のゾーン化

1. 施策ステップ

- ① 路面電車の岡山駅前広場への乗り入れを第一歩とし、この段階で抜本的なバス方面別化を実施する。
- ② 路面電車を岡山駅～市役所～水道局前～大学病院～清輝橋に延伸し、環状化する。市役所～大学病院を健康ゾーンとする。
- ③ 路面電車を岡山西口に延伸し、奉還町～岡山駅一表町商店街ゾーンの回遊性を図る（将来はJR吉備線へ乗り入れを検討）。
- ④ 路面電車を城下～後楽園下、清輝橋～岡電岡南営業所、水道局～JR大元駅前へ延伸し、岡電岡南営業所及び大元駅前、東山をターミナル化し、レール&バスで路線バスとのシームレス化を図る。
- ⑤ 市内バスはバスロケで情報化する。
- ⑥ 一人乗りマイカーはロードプライシングで課税し、郊外でパーク＆ライドとして、歩いて楽しい街づくりで市内中心部の環境を守り、かつ活性化を図る。
- ⑦ 路線バスは全車両バリアフリーの環境対応の電気バスに入れ替える。



- ⑧ 岡山駅前ターミナルは2階から方面別化し、未来都市をイメージした乗り物別の透明チューブのエスカレーターを配して、交通の拠点性をアピールするとともに、政令都市岡山のシンボルとする。
- ⑨ キックオフとして超床低車両MOMO2号を来年度に導入。その後は未来型で充電式電車SWIMO（川崎重工業製で世界初電池駆動式路面電車）を登場させて、「エコ公共交通政令市おかやま号」として、岡山市の広告塔とし、車内には市の広報やワンストップ利用などのアイデアを盛り込んで、官民一体の都市づくりで、全国モデルを岡山市で実現する。もちろん、延伸した路線は軌道だけを敷設し、充電式の電車で架線をつけない。
- ⑩ これらの施策で、世界一のエコで、バリアフリーで情報化された、エコ公共交通都市を実現し、公共交通利用で健康で高齢者も自立できる生きがいのある都市づくりをする。

2. 施策効果

- ① 世界一のエコ公共交通都市が岡山市において実現できる。
- ② 高齢者の外出が増えることにより、老人性痴呆症を抑制し、健康で自立できる生きがいのある都市となる。
- ③ CO2排出量が抑制され、CO2排出量25%削減の目玉となる。



2011年10月15日
MOMO2（ももツー）
デビュー!!

… MOMOデザインコンセプト …

MOMO1は、人と街を楽しくする
MOMO2は、人と街を美しくする



MOMO2号機となる「MOMO2(呼称・ももツー)」は、未来都市・岡山にふさわしい先進的なデザイン性と最新のエコ技術を導入した最先端の車両(水戸岡鋭治氏デザイン)

世界一のエコ公共交通都市を「岡山」において実現

国際公約でもある二酸化炭素25%削減の実現を図り、国際的な環境モデル都市を目指す

三つの商店街の回遊性を向上し、商圈人口を60万人→140万人へ高めることで、年1,000億円以上の第三次産業のプラス効果が期待できる

施策の効果予想

公有民営による高齢者無料化などの施策実施により、高齢者の外出を促し、老年期認知症の抑制、健康で自立できる、生きがいのある都市創成を目指す

後樂園下への延伸で、ミシュラン三ツ星★★★の岡山後樂園を中心とした、観光都市おかやまを具現化。和歌山電鐵の再生で培った、観光の活性化を岡山市でも積極的に実施

CO₂ 25%削減の目玉に!!

乗用車からバスへの変換で
CO₂は4分の1に

住民の健康増進
→ 公共交通機関の利用が体型維持に有効
通勤にLRTを利用する人は、利用しない人に比べ、肥満リスクが81%低いという研究結果
(アメリカ・ペンシルベニア州
ドレクセル大学 Robert Stokes氏)

地域公共交通の活性化と再生

高齢者が家から気軽に外出できる
→ 老年期認知症は激減

外出が歩行障害を4分の1、認知症を3.5分の1、
発生リスクを抑制できるという研究結果
(東京都老人総合研究所 新開省二氏)

どちらが国民目線??

高速道無料化で2兆5千億円、
地方の公共交通が全て「タダ」
でも1兆円

「安全・安心・エコで健康」をテーマとした 新しい ECO 事業開発&取組み

カーボンオフセットとしての取組み
クリーンエネルギー事業



太陽光発電

太陽光発電「両備グレースソーラー」



食の安全追求と安定供給

植物工場ミニプラント「やさい蔵(ぐら)」



その他 ～ eco事業 ～

- ・ 時刻表見えルン♪
- ・ バス車載用ウイルス除去装置
- ・ タクシー車載用ウイルスウォッシャー
- ・ LED電球「たま電球」
- ・ 電気タクシーの導入

など



太陽光発電
両備グレースソーラー



植物工場「やさい蔵」



LED電球「たま電球」



京山ソーラー・グリーン・パーク

両備「バス」と 両備「タクシー」の 取組み



電気バス「SOLARVE」↑ ↓「SAIBUS」



ソーラーパネル搭載の電気バス「ソラビ」や、自転車と一緒に街を移動できる「サイバス」の運行。街の景観をお洒落に演出するMC Decaux社のバス停を日本で初めて設置(2番目は横浜市)をはじめ、お客様の健康を守るウイルス除去装置をいち早く搭載

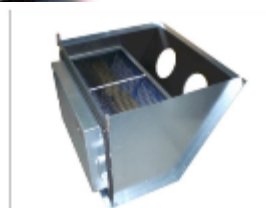


電気タクシー(i-MiEV)



HV プリウス・タクシー

三菱自動車製の電気自動車をタクシーとしていち早く導入し、トヨタのハイブリッドカー「プリウス」のタクシー化をはじめ、お客様の健康を守るため、ウイルス除去機器をタクシー全車に装備



三菱自動車製の電気自動車をタクシーとしていち早く導入し、トヨタのハイブリッドカー「プリウス」のタクシー化をはじめ、お客様の健康を守るため、ウイルス除去機器をタクシー全車に装備



日本初の広告パネル付きバスシェルター
2003年3月岡山市



全国公営交通初の広告パネル付きバスシェルター
2004年11月横浜市

公共交通の利用促進&環境保全への取組み

2013年6月現在

昭和50年8月～昭和52年4月 バス専用レーン敷設

➢ 30号線・県道に敷設 当新田～大雲寺・平福～大雲寺間 総計7.7km.

平成2年4月 両備バス・下電バス間のダイヤ調整・定期券での共通乗車実施

平成11年5月 環境定期券（家族割引の特典付き）

平成11年秋 公共交通の利用促進運動の展開

RSK山陽放送ラジオで、公共交通利用に向けたパネルディスカッションを開催

➢ 「歩いて楽しいまちづくり」運動へ

平成11年11月28日「トランジットモール」実験

➢ 両備バス前県庁通り約650mで、公共交通機関と歩行者のみ通行可能として実施

平成11年12月運用開始 簡易バスロケーションシステム導入

➢ 国交省、岡山県が主体となって、バスの到着時刻を予測するGPS利用のバスロケーションシステムの実験を開始

➢ 両備バス・岡電バスがこの事業に参画（平成23年3月をもって運用終了）

平成12年3月 岡山市パーク&バスライド実行委員会を設置

➢ マイカーと共存し、バス利用促進への転換策として展開

平成12年3月 パーク&バスライドの導入

➢ マイカーと共存し、バス利用促進への転換策として、ショッピングセンターを中心に駐車場を設け、県・市の公共地に拡大（252台収容可、現在利用率85%）

平成12年4月 ことぶきパス（高齢者優遇パス）

平成12年11月 かもめバス切符の発売

➢ 岡山駅から小豆島への路線バスとフェリーの乗継割引キップ

平成12年12月～平成13年2月末 コミュニティバスの運行実験

➢ 岡山駅～錦町～オランダ通り～天満屋～緑道公園～ヨーカドー前～岡山駅

②11月28日、両備バス本社前県庁通り約650mで公共交通機関と歩行者のみ通行可能な「トランジットモール」の実験を行った



トランジットモール実験風景
(グループ広報誌『両輪』353号より)



かもめバス

平成13年7月 サマーKidsパスの導入（夏休み期間中、小学生・中学生乗り放題パス）

平成13年7月結成・運動開始 「岡山県公共交通利用を進める県民会議」の設置

- 岡山県下の運動として、毎月・最終金曜日を「公共交通利用の日」とし、
「ノーマイカーデーの日」として実施

平成13年11月初期導入 PTPSの導入（平成17年3月拡充）

- 同時にPTPSシステムが導入された4路線／区間キロ11.2km、対象車両数
…両備バス40両、岡電バス40両

平成14年1月 お得な定期券の導入（E-定期券・団体割引定期券）

平成14年3月 おかでんMOMO導入

平成15年 サイクル&バスライド…オムニバスタウン施策として

- 路線沿線に駐輪場を設ける（両備バス40ヶ所、岡電バス17ヶ所）

平成15年度～平成19年度 オムニバスタウン構想の実施（5年間実施）

- 岡山市とバス協会が連携しバス利用策の展開

平成16年3月 グレースタワー竣工…コンパクトシティのシンボルとして建設

平成16年4月 岡電・両備バス共通定期券

- 岡電バス・両備バスの共通区間は双方の定期券で双方に乗車可とする

平成16年4月 定期券の共通化

- 路面電車と岡電バスの共通化

平成16年7月 ⇒ 岡山IC駐車場新設（第1号）

- 高速バスP&B駐車場は自社開発（岡山IC・倉敷IC・山陽IC・津山口の
4駐車場を設け、550台収容可）

平成17年3月 ハイグレードバス停の整備・上屋ベンチの設置

- 日本で初めてフランス（MCデュコー社）から無償で設置のバス
シェルターを岡山市に誘致（現在、岡山市内32基、倉敷市内4基
を設置）

平成18年10月 ICカードシステムの導入、運用開始（プリペイド・
ポストペイ方式）

平成19年10月 岡電バス・中鉄バス間の共同運行

- 岡山空港リムジンバスの共同運行



おかでんMOMO



シビルライナー（パーク&バスライド）



洲崎バス停駐輪場



田中バス停駐輪場

地域公共交通 と「まちづくり」

平成20年2月 バス停の簡易夜間照明「時刻表見えルン♪」の自社開発

➢全国初・自社開発の「簡易設置型バス時刻表照明装置」で夜間のバス停時刻表を見やすくした（バス停に電池式LED照明装置を取付け、夜間でも、バス時刻を容易に確認可能とした）

平成20年3月 IC定期券システム運用開始

平成20年10月 バスカードシステムを廃止し、ICカードシステムに完全移行

平成22年7月 自転車が搭載できるSAIBUS（サイバス）

平成22年8月 太陽光電池を利用したハイブリット未来バスSOLARVE（ソラビ）を導入

平成22年10月 岡電バス・両備バス間で市内線の再編

➢岡電バスへ両備バス市内線の運行管理移管を行い、グループ内で運行の岡山市内線は路線を岡電バスに集約

平成23年6月 廃天ぷら油を使用した路線バス運行開始（岡電バス）

平成23年10月 MOMO2を導入…エコ公共交通大国構想実現への取組み

平成25年6月 廃天ぷら油を使用した路線バス運行開始（両備バス）



SAIBUS(サイバス)



SOLARVE(ソラビ)



廃天ぷら油 路線バス

簡易夜間照明
「時刻表見えルン♪」

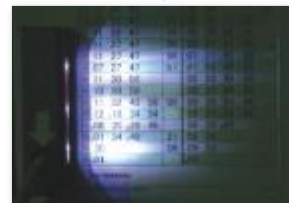


設置点灯イメージ

点灯前



点灯後



MOMO2



☆ これらの取組みによる年間のCO₂減少量 … 合計2,949 t-CO₂ ☆

